

区 分	出 題 意 図 ・ 正 解 例
<p>専門科目</p>	<p>問題1</p> <p>&lt;出題意図&gt; 衛生統計や衛生法規に関する基礎的な知識を問う、または生理学的な反応を問う問題である。我が国の保健医療に関する社会的背景・動向、看護に必要な知識を正しく身につけているかを問う。</p> <p>&lt;解答&gt;</p> <p>(1) × →がんについての情報提供  (2) × →1位肺がん、2位は大腸がん 3位は胃がん  (3) ○  (4) × → アミロイドβタンパクはアルツハイマー型認知症  (5) × →都道府県および政令指定都市  (6) ○  (7) ○  (8) ×  (9) ×  (10) ×</p>
	<p>問題2</p> <p>&lt;出題の意図&gt; 慢性膵炎の患者の看護に関する問題である。慢性膵炎は飲酒との関連も多いが、患者の自覚がないままに進行してしまう。患者の検査結果から患者の状態をアセスメントし、生活上の問題を抽出し、看護の実践に必要な基礎的な能力を問う。</p> <p>&lt;解答例 &gt;</p> <p>1) Aさんが慢性膵炎と糖尿病を併発するに至った機序を説明しなさい。</p> <p>慢性膵炎の原因となった飲酒との関連、また膵臓の外分泌機能と内分泌機能の関連を理解しているかを確認する。</p> <p>膵臓は<u>長期間の飲酒で傷つけられ、膵臓の正常な機能を失って、慢性膵炎を引き起こす。</u></p> <p>飲酒によって、膵臓に炎症が持続し、<u>炎症により、消化酵素（トリプシノーゲン）が活性化され、トリプシンとなり、ゆっくりと膵臓の外分泌細胞が脱落し、徐々に繊維化して硬く萎縮していくこと</u>によって機能低下を引き起こす。</p> <p>膵臓の外分泌機能として、タンパク質を分解するトリプシノーゲンの減少、炭水化物を分解する<u>アミラーゼ</u>、脂肪を分解する<u>リパーゼ</u>という消化酵素が上昇している。<u>外分泌機能の低下による体重減少や脂肪便などが見られる。</u></p> <p><u>内分泌機能としてインスリンの分泌の低下によりと同時にグルカゴンの分泌低下により、糖尿病が悪化してもHbA1cの値には大きな上昇はみられないこともある。</u></p>

2) Aさんの退院時の生活上の問題をあげ、それに対する生活指導について述べて下さい。

- 血糖値が不安定になる：血糖コントロールを行う。食事制限を守る  
規則正しい生活、指示に応じたインスリンの投与  
インスリンが守られているか、インスリン注射の方法  
や血糖値の自己測定方法の指導
- 飲酒量が多い：飲酒が原因であることを説明し、理解を求める  
精神科を受診するよう連携をとる。飲酒に対する思い  
を確認するとともに自覚を促す  
医療機関とつながっていることを目指す
- 食生活が不規則：規則正しい生活を送り、過食を控えるようにする  
脂肪を制限した食事をとるように指導する
- 薬物療法：消化酵素を補うなどの薬物療法が行われることがある。的確  
に服用できるように指導する

### 問題3

#### <出題意図>

主観的な時間感覚について物理的な時間との違いを理解しながら、普段どのような体験をしているのか、文章を読み込む力と同時に自己の体験を適確な言葉で表現する力を問う。

#### 解答例：

30歳を過ぎる頃から、1年間の流れを早く感じるようになってきた。1年の流れを早く感じるようになるのは、自分の経てきた時間分の1年になるから分母が大きくなればなるほど、1年は短く感じられるようになるといわれている。子どもの頃の1年は1日1日が充実していたから長く感じるのではなく、分母が小さい数であるからということになる。

しかし、今年の4月以降、新型コロナウイルス感染症拡大によって、いろいろな事が一変した。これまで当たり前のように行っていたことも、で

きなくなり、新たにいろいろなツールを使うことが必要になった。近頃、物覚えが悪くなってきたせいもあり、1つ1つの学習に時間をかけるようになった。4月からまだ半年も経っていないのに、とても長く感じる。通常であれば、分母が大きい今年の1年も短く感じられるはずが、とても長く感じるということは、物理的な計算では説明がつかない。日々、新たなことに出会い、考え、苦勞して覚え、それは子どもが新たな体験をするかのような日々だから、とても時間が長く感じられるのだと思う。

同じように、新しいところに行くときは長く感じ、帰りは思ったより早く感じられる。新しいところに行くときは、場所も予測がつかないし、不安に感じ、また新たな出会いにも期待と不安が混じるからだと思う。帰りはホッとした安堵感や一度通った道を帰るので、見たことのある景色にゆとりを感じながら通ることができるせいだと感じる。

このように不安や期待、苦難を乗り越えるときには、時計がゆっくり回っているかのような錯覚に陥り、苦なく過ぎるときには、早く感じられるということを実感した。このように考えると、体験していることが多いほど、物事も上手に乗り越えられるので、年齢が高くなると1年が早く感じられるのは、さまざまな出来事が起こったとしても、うまく乗り越えられているからなのかもしれないと感じた。年をとっても、いろいろな事にチャレンジをしながら、ドキドキして1日1日を過ごすことが大切なような気がしている。

小論文

<出題意図>

世界情勢でも問題となっている感染対策の中で重要とされる手指衛生に関する英文の読解力と、その対策について考察する力をみる。

問題1

<解答例>

マラウイでは、手指衛生設備の設置を分娩室 75%、外来 65%、子供の予防接種エリアは 36%とし病院の診察室のタイプごとに手指衛生設備の設置をする取り組みを行っている。さらに、バングラデシュでは、病院の 69%はケアを行う場所に手指衛生設備を備え、カンボジアの医療施設の半分には手洗い設備を設置する取り組みがされている。しかし、手指衛生設備の設置だけでは、手指衛生の実践には繋がっていない現状があります。そのため、手指衛生の実践の改善や持続をするために、ペルーでは、手洗いのトレーニングとインセンティブを備えた医療施設の充実を高めている。また、ホンジュラスでは、手洗いを促進させる取り組みを行っている。その上、シエラレオネでは、エボラ出血熱について学ぶ機会を持たせ、医療従事者の手洗い行動を変えるように取り組んでいる。

問題 2

<解答例>

幼児や障がい者は、人の手を借りることで手洗い場へのアクセスがしやすくなったり、除菌シートで手を拭くことも可能になる。そのため、幼児や障がい者を支援する周囲の教育が必要であると考え。また、幼児や障がい者自身も、hand hygiene の必要性を学ぶ機会を持つことで、自ら進んで行動することや、手指を清潔にしたいことを表出することで支援を求められることができると考える。幼児や障がい者が、自ら行動しやすくするためには、手洗い場の構造などの工夫によりアクセスしやすくする必要がある。例えば、幼児が手洗い場を使用する時には、踏み台を設置したり、幼児に人気のある手洗いの音楽が流れるようにすることで、幼児の行動を促進できると考える。障がい者に関しては、どのような障がいを抱えているかによるが、視覚に問題がある方であれば、手洗い場の位置を音や視覚障害者誘導ブロックで示すことで、行動の促進になると考える。